

「あきらめるな！」  
アルツハイマー病

もの忘れ外来の  
専門医が教える

宇野正威 うの まさたけ  
オリーブクリニックお茶の水 顧問医師

早期に見つければ、  
アルツハイマーはこわくない！  
ベテラン専門医が教える  
「いい時期」の延ばし方



「アルツハイマー病」といわれてもあきらめたり、  
絶望することはありません。早期に診断されれば  
生きがいをもって生活することは可能なのです

もの忘れ外来の専門医が教える

「あきらめるな！」

アルツハイマー病

6月26日発売

著者 オリーブクリニックお茶の水 顧問医師

宇野正威

現在の医学では「治らない」といわれている病気が「アルツハイマー病」です。

では、病気になったら、もうどうしようもないのでしょうか？いいえ、そんなことはありません。

アルツハイマー病になったとしても、早期であったり、軽度認知障害の段階で見つけて対策を打つことで、認知機能を改善していい時期を長く延ばすことができるとわかってきました。

その方法は、決して特別なものではありません。進行を遅らせる食生活、趣味、運動などじつに多くの方法があります。著者の宇野正威（うの・まさたけ）氏は精神科医であり、国立精神・神経センター武蔵病院（現・国立精神・神経医療研究センター病院）に日本初の「もの忘れ外来」を設立した人物。認知症の早期発見・早期治療に尽力してきた医師です。現在は、軽度認知障害の治療を目的としてマスコミでも話題の「オリーブクリニックお茶の水」の顧問医師を務めています。

そんなベテラン認知症専門医が長年の診療経験から教える、病気の進行を緩やかにしていい時期を延ばす実践的な方法を本書では数多く紹介。また、軽度認知障害の治療を目的とする『オリーブクリニックお茶の水』で行われている認知リハビリテーションについてもくわしく紹介します。

定価: 1300円(税別)  
ISBN978-4-07-411430-6  
6月26日発売  
発行: 主婦の友インフォス情報社  
発売: 主婦の友社

【内容】第1章 アルツハイマー病になっても生きがいを持って生活できる  
■第2章 アルツハイマー病の発症から中期まで ■第3章 アルツハイマー病の早期の診断はむずかしくない ■第4章 MCIからアルツハイマー病へはどう進行するのか ■第5章 適切な知的・身体活動と食生活が病気の進行を遅らせる ■第6章 症状を軽くする効果があるアルツハイマー病の薬 ■第7章 『オリーブクリニックお茶の水』が行う話題の『認知リハ』ほか

ご注文はお近くの書店で

※書店ご不便の際の読者様窓口は、「主婦の友コールセンター」

フリーダイヤル0120-916-892